

1-3月景況指数

地元建設業「悪い」続く

保証3社 4-6月改善見通し

北海道、東日本、西日本の建設業保証3社は、2008年度第4回(09年1-3月)の建設業景況調査をまとめた。地元建設業界の景況感のBSI値(景況判断指数)が地区別、業種別、規模別すべてで

「悪い」となり、官公庁工事の受注も「減少」の傾向が続いている。調査時期が政府の経済対策が具体化する前の3月上旬だったことが影響しているとみられ、4-6月の地元建設業界の景況感は1-3月より改善する見通し。

1-3月調査の地元建設業界の景況感指数は、前期比よ

り0.5ポイント悪化して39.0となった。地区別でもすべての地区で「悪い」傾向が続ぎ、北陸の36.0が最も小さく、近畿と中国が41.5と最も大きかった。ただ、4-6月の全体の見通しでは、37.5と1-3月よりも1.5ポイント改善している。

BSI値が28.0と前期比で0.5ポイント「減少」傾向となった。このうち、官公庁工事の受注は、26.5と前期と同じ数値、民間工事は27.0と前期比2.0ポイントの「減少」傾向を示した。民間工事の地区別では、これまで関東や東海が比較的良好傾向にあったものの、今回は北海道のマイナス幅が最も小さく、北陸が最も大きくなった。

資金繰りは、前期より2.5ポイント「厳しい」となり、4-6月はさらに5.5ポイント「厳しい」傾向に落ち込むと見通している。短期借り入れ金利は、これまで上昇傾向だったものの、1-3月で2.5と、「下落」に転じた。銀行などの貸し出し傾向は10.0で、前期より3.0ポイント、10-12月より1.0ポイント「容易」の傾向になったものの、4-6月は再び「厳しい」傾向に振れ、14.0となる見通しだ。

資材調達には、高騰していた資材価格の下落で「容易」傾向に転じ、今後も容易傾向が続く見通し。3月に実施した調査は3230社を対象とし、有効回答率は88.3%だった。